

情勢報告

土壌肥料勉強会の開催（大原・西ノ平生産組合）



熱心に説明を聞く参加者

振興センターでは、こうち型集落営農の取り組みを進めている大原・西ノ平生産組合を対象に土壌肥料勉強会を実施した（1月25日、参加者15名）。これは、スイカ部会やナス部会でSWOT分析を実施した際に提案し、開催が決定したもので、当日は、土壌肥料の基礎知識について学んだ後に、事前に実施した土壌分析の結果について説明を行った。参加農家からは、自分の圃場の分析結果についての質問が多く出されるなど、有意義な勉強会となった。

今後は、勉強会での内容を適正施肥や土作りへと繋げていく。

集出荷場の衛生チェックに第三者の視点を！



ウォッチャーさん

左端：サンシャインヴィアン：横山氏

右端：JA土佐れいほく ISO 部会代表
：窪内氏

2月8日に「こうち農業環境・安全・安心ウォッチャー」2名を招いて、芸西、安芸、中芸の集出荷場について衛生管理状況のチェックを行った。従来は、園芸連、JA、振興センターでチェックを行っていたが、消費者の感覚など第三者の視点を入れることで、衛生管理の徹底を図ることが目的。

ウォッチャーさんからは、「衛生管理がキッチリできていますね」、「あそこの部分には泥取りマットを設置してはどうか」などいろいろな意見が出された。

振興センターでは、今後とも産地の安全安心の取り組みを強化するため、ウォッチャーさんの活用を進めていく。

お国自慢の会開催



中芸地区農漁村女性グループ研究会は、2月8日田野町千福集会所で30名を集め「お国自慢の会」を開催した。地域農産物と加工グループの加工品を消費拡大につなげるために、各グループで消費者にPRしやすい料理を持ち寄り、皆で試食、講評を行った。今回は、8グループから28品の料理が出された。ナスのたたきの他、ミョウガの甘酢漬は、ちらし寿司に利用する等、それぞれの利用しやすい形を説明し、自慢しあう楽しい会となった。また、振興センターから土着天敵を利用した講演を行ったところ、ゴマを天敵利用としてだけでなく、生産物として農業経営に取り入れていくという話は大変参考となり挑戦の意欲があらわれた。

今後もグループ活動が実のある活動になるように支援をしていく。

室戸地区で、トンネルオクラの栽培講習会を開催



講習会の様子

2月17日、JA土佐あき室戸支所オクラ部会を対象に、JAと連携して栽培講習会を開催し、9名の生産者が参加した。

ここ数年、さらなる所得向上をねらって、早播きをする農家が増えているが、寒さ等の影響により、何回も播き直して、逆に経費が増えてしまう状況となっていたため、今回は播種する前に開催した。

振興センターからは、「オクラの播種についての注意点」の説明を行い、無理な早播きをしないことや、トンネル栽培における保温対策の徹底について指導した。また、JAからは、「農薬使用に際しての注意点」が説明された。

平成23年作において、収量向上等を目指し、部会とともに取り組んでいく。

羽根園芸研究会ナス部会が現地検討会を開催



圃場状況を確認する参加者

2月17日、現地検討会が開催され部員38名中23名が参加した。圃場を巡回し、それぞれの生育状況などについて意見交換を行った。今冬は、例年と比べ日照時間はあるものの気温が低い状態が続いている。管内では無加温の栽培農家が多いため、果実の肥大不良が目立っていたが、天敵技術が定着しており病虫害の発生は見られなかった。

その後、場所を園芸集出荷場会議室に移し、振興センターから2、3月における灌水・施肥・病虫害対策等を指導した。

振興センターは、部会活動や個別巡回を通じ品質向上・安定生産に向け支援を継続していく。